

坂中先生を偲んで

南山大学人文学部心理人間学科 青木 剛

坂中先生が休職なさっている間、携帯電話のメールでよくやり取りしていた。その中には、もっと伝えたいのにそれがかなわないもどかしさや、時にはあと数本の書籍を書こうと考えているという意欲など、その時々気持ちを知らせてもらったこともあった。その中で、坂中先生ご自身が人間関係研究センターで実現できて嬉しく思われていたこともあった。その1つは、パーソンセンタードアプローチ (PCA) に関する文献リストを途切れることなく毎年紀要で執筆できたことだと話されていた。この文献リストは、PCAに関する研究や書籍、記述を辿ったり、その時々研究動向を知ったりする上で大変貴重な情報である。元々好きな物の収集を趣味とされていた坂中先生が、PCAに貢献したいという思いと相まって楽しんで取り組まれていたであろう、ライフワークの一つだったのだと思う。この文献リストについては、田中秀男氏と私に引き継がれた。余談だが、この田中氏もまた、ライブリアン気質の研究者で、坂中先生と田中氏が初めて顔を合わせた食事の席で意気投合し、その食事後にお二人と私と共通の研究者と4人でカラオケに行った思い出がある。その時に、坂中先生が銀河鉄道の夜の挿入歌やミュージカルの歌などを歌われていたことを懐かしく思う。

また、もう1つは、PCAの講座を実現できたことだと話されていた。この講座については、私が南山大学に着任した2018年に坂中先生よりぜひ講座をしたいが、協力してほしいと話を持ち掛けていただき、私もぜひにとご一緒させてもらったものであった。実際に坂中先生と一緒に実現できたのは、2019年に実施した<ベーシック>のみであったが、受講者の方々の協力もあり、坂中先生がPCAの中で大切にしたいこと・伝えたいことについてワークを通して少しでも受講者の方々に体験してもらえた様子が見られ、<アドバンス>や<ベーシックエンカウンター>についても実施したいと意気込んでおられた。その後、コロナ禍に入り、それらは実現できなかったが、ワークショップの内容については坂中先生と共に考え、構成することができた。

文献リストも講座も、坂中先生には私自身はとても及ばないと思う。また、坂中先生自身も、坂中先生のように私にやってほしいとは思っていらっしやらず、私らしくやってほしいと思われているのだと思う。とはいえ、坂中先生らしさや坂中イズムに少しでも触れられた者として、そうしたことも大切に続けていけたらと思う。

人間関係研究センターがあったからこそ、文献リストの継続的執筆も講座実施も実現できたことだと坂中先生ご自身が嬉しく思われていたこと、実現に至れたことについてセンターやセンターに関わる方々、受講者の方々に感謝されていたことをみなさんに共有できたらと思い、執筆させていただきました。このような機会を頂戴できましたこと、私自身も嬉しく、ありがとうございます。